

南カリフォルニア大学 海外臨床研修

研修期間：平成 28 年 7 月 24 日～8 月 8 日

所 属：名城大学薬学部薬学科

学 年：5 年

学籍番号：100973165

氏 名：武藤里奈

1.参加目的

私が今回の海外臨床研修へ応募したのは、9 月より実務実習が始まるのに先立ち、医療の先進国であるアメリカで、日本よりも患者や医師から信頼の厚い薬剤師がどのようなことを行っているのかを知りたいと思ったためです。

2.研修内容

【研修テーマ】

【研修日程】

月日	研修内容
7月 25 日	オリエンテーション、HSC ツアー、アメリカの薬学教育について、歓迎会
26 日	MSE に基づく臨床の原則、SOAP ノート、患者評価 Keck Medical Center 見学 UPC ツアー
27 日	MSE の内容
28 日	患者カウンセリング
29 日	Norris Cancer Center ツアー El Monte 薬局ツアー
8 月 2 日	Plaza Pharmacy (外来患者薬局) ツアー 臨床研修参加校のプレゼン うつ病における臨床導入、薬理学
3 日	うつ病の臨床治療学、症例検討
4 日	うつ病の症例討論 不眠症の薬物療法の発表 (淑明女子大学校学生による) 不眠症についての討論
5 日	今回の研修の評価 (アンケート) 修了証授与

【研修内容の詳細】

南カリフォルニア大学 (USC) と薬学教育についての話を聞きました。現地の学生とプログラム参加校 6 校の交流を行いました。HSC 内の 3 カ所の施設と地域の薬局見学を行いました。

SOAP ノートの書き方、精神疾患に焦点を当てた患者カウンセリングについて、状態指標の評価などの授業を行いました。

USC の学生の講義を受け、症例に対して学生同士でグループディスカッションを行いました。

3.感想

USC での研修に、日本より名古屋市立大学、富山大学、昭和薬科大学、名城大学の 4 校、韓国より徳成女子大学、淑明女子大学の 2 校の計 40 名で参加しました。参加学生同士のディスカッションは 8 つのグループで行いましたが、他大学の学生とディスカッションを行うことで様々な意見を聞くことができました。アメリカや韓国の学生はとても積極的であり、見習うべき点であると感じました。また、他国の教育や現場を自分の目で見える機会はなかなか経験できないことだと思うので、この貴重な体験を 9 月からの実務実習に生かし、将来的に働くようになったときに生かしていくことが出来るようにしたいです。

アメリカの薬学生は、4 年制大学で最低 2 年は **Pre Pharmacy** として基礎的な学問（生理学や有機化学など）を履修し、薬学部共用試験を受けた後、薬学部に入學してから応用学問や臨床実習などを行います。特に臨床実習は日本より長く 6 週ずつ様々な場所を回ります。国家試験合格後、即戦力となる薬剤師の養成に力を入れていると感じることが出来ました。

地域の薬局、病院内の外来薬局、2 カ所の病院を見学し、日本との調剤の仕方の違いに驚きました。調剤はピッキングマシンが行うかテクニシャンという薬剤師免許を持っていない人（テクニシャンの免許は必要であり更新が必要）が行っており、薬剤師は監査やカウンセリングに重点を置いていました。ピッキングマシンはすべてバーコードで管理されており、鍵がないと開かないということで、日本では鍵付きの金庫に保管しなければならない薬剤などもセットされているということでした。また、バーコード管理なので棚卸も行わないそうです。アメリカではリフィル処方が普及しているため、薬のみを渡すだけの場合もあり、地域の薬局では大型チェーン店との差別化を図るため、薬剤師ではない人による薬の配達も行っていました。日本と異なり、1 つの薬剤は 1 つのボトルに詰めるということで一包化はほぼしないということで、患者が薬を飲むタイミングをしっかりと理解しているかどうかをカウンセリングでしっかり確認することも大切であるということでした。また、病院においては疾病別にプロトコルが作成されているものもあり、それについては薬剤師が処方箋を書くことが認められていることに驚きました。外来患者の薬局ではワクチンを打ったりするためなどで使用するため、簡単な治療室のようなものもありました。

SOAP ノートや患者カウンセリングでは日本と大差のないように感じました。しかし、アメリカでは刺青が珍しいことではないため、ドラッグを使用している注射痕を隠す目的で入れている人もいるので、腕や指をよく観察する必要があると言われていたのが印象的でした。